

愛

Love

別れ際、「帰りたいくない」と泣いた子どもたち。その理由はホストファミリーがくれた温かな愛でした。今回の研修を通じ、子どもたちはわたしたちに大事なことを教えてくれました。それは人をつなぐやさしさと心をつなぐ愛情。認め合うこと、支え合うこと、信じ合うこと人間「愛」について考えます。

地域の愛があふれていた昔の日本

研修先のカナダは、「モザイク国家」と呼ばれています。モザイク国家とは、多民族・多文化社会のことです。先住民と移民が、それぞれの文化や伝統を認めながら共存していく国がカナダです。

肌の色や言葉の違いで、相手のことを差別せず、他人に大らかな愛情を持って接する。それがカナダ人です。

言葉や生活習慣がまったく違う中、10日間過ごしただけで「帰りたいくない」と子どもたちが涙を流したのは、カナダ人が持つ大らかなさ、愛情を感じたからでした。

今から数十年前の日本も、カナダのように他人を受け入れ、愛情を注ぐことができる国でした。近所の子どもを本気で叱ってくれる大人がいました。隣の子どもを気軽に預かってくれる温かな家庭がありました。地域全体が、愛にあふれていました。しかし近年、このようなことをできる地域は少なくなっています。

今の日本では、子どもが親を刺す、人を無差別に傷つけるなどの悲しい事件が後を絶ちません。そして世界では、戦争やテロが起きています。

日本で起こる悲しい事件や、世界

中で起こる争いの背景には、人間関係の希薄さが関係しているのではないのでしょうか。

子どもたちが教えてくれた人間「愛」

子どもたちは海外研修を通して、わたしたちが忘れていたことを教えてくれました。

それは、互いに向き合い、認め合うことの大切さ。人と人が思い合う「人間愛」の良さです。

近年、共働きなどにより、親と子どもが触れ合う時間が少なくなってきました。それでも、親が子に一杯愛情を注いであげれば、きっとそれは子どもの心に響くでしょう。愛情を注がれた子どもは、やがて他人に対しても、同じように愛情を注いであげられる子に育つでしょう。

自分の子どもに注ぐ愛情と同じくらい、地域の子どもたちも、皆さんの大らかな愛で包んであげてください。子どもたちと一緒に笑い、一緒に泣き、正面から向き合ってください。

人と人の心をつなぐ「人間愛」という名のバトンを今、わたしたちから子どもたちへと手渡してあげましょう。



【人と積極的に関わる「自信と勇気」をもらいました】

山下佳奈美さん

Yamashita Kanami

(川根高等学校2年生・水川)

わたしは3年前、この英語研修に参加しました。ホームステイは、わたしにさまざまなことを教えてくれました。ホストファミリーと過ごしたかけがえない時間。そこには、自分の家にいるような安心感がありました。本当の家族のように信頼しあい、深い愛情で結ばれていました。心が通じ合うことが、こんなにうれしいとは思いませんでした。カナダから帰って、家族はもちろんのこと、地域の人たちとも親しくしよう、仲良くなるとういう気持ちが芽生えました。ホストファミリーと過ごした経験が、いろいろな人と積極的に関わり合う『自信と勇気』を与えてくれた気がします。



この子どもたちの笑顔がいつまでも続いていきますように

ここにも、一つの物語。広報かわねんちよう